富津市文化財マップ

富津市文化財マップ注意事項
①文化財のほとんどは私有地にあります。見学の際にはゴミを散らかしたり、植物を無断で採取したり、踏み荒らしたりしないように、マナーを守りましょう。
②文化財の中には、現在でも信仰の対象となっているものがあります。寺社などの場合はお参りしてから見学するように心がけましょう。
③市内にはこのマップに掲載した以外にも、多数の文化財があります。ここに掲載したものは紙面の関係で、指定文化財を中心とした一部のものに限らざるを得なかったことをお断りしておきます。

富津市教育委員会　生涯学習課文化係　TEL 0439(80)1342

東福寺・木造千手観音坐像②

鎌倉時代後期の千手観音坐像で、高さ46.7cmの寄木造りである。
京都国立博物館で解体修理が行われた際に、嘉暦2年(1327)の胎内銘が発見されている。

万福寺・銅造釈迦三尊像⑥

万福寺の本尊で、鎌倉前期の制作と推定され、獅子に乗った文殊菩薩と象に乗った普賢菩薩を脇侍とする三尊像である。高さ28.5cmの小形の仏像。

富津ふるさと展示室⑬

旧石器時代から江戸時代まで、富津市内の遺跡からの出土品を展示し、写真やパネルで富津市の歴史を紹介する資料室。
富津公民館2階、月曜・祝日休館。

富津埋立記念館⑭

富津の漁業関係の資料を展示する資料館で、海苔養殖や潜水漁業のジオラマもある。また海堡関係の写真も展示する。
入館料大人100円・子ども50円、月曜・祝日休館。

浄信寺・石燈籠⑯

本堂の前にある大きな一対の石燈籠は飯野藩2代藩主・保科正景によって寄進されたものである。
花崗岩製で高さ2.9mを測り、富津市内では最大級の燈籠である。

浄信寺・保科正景の墓⑰

飯野藩2代藩主・保科正景は、父正貞の領地を引き継いだ上に5千石を加増され、合計2万石を領した。
正景は元禄13年(1700)に85歳で没し、浄信寺に葬られた。歴代飯野藩主の墓は東京都杉並区大円寺・港区青山墓地にあり、富津市内にあるのは正景の墓だけである。

飯野陣屋跡㉑

飯野陣屋は飯野藩保科家10代223年にわたって存続した陣屋である。陣屋が造営されたのは江戸前期の慶安元年(1648)であり、1万7千石の大名となった保科正貞によって築造された。陣屋の面積は水濠に囲まれた内郎だけでも約4万1千坪(123,000m²)と広大で、長州徳山・越前敦賀とともに日本三陣屋の一つに数えられる。

織本花嬌の墓③

江戸時代中期～後期の女流俳人であった織本花嬌は、西川村の名主の娘で、富津村の名主織本家に嫁いだ。小林一茶とも親交があり、夫の砂明らと「富津連」をつくって句会を開いた。

第一海堡⑨

首都防衛のために築かれた、砲台を備えた人工島で、明治23年(1890)に完成。
面積23,100m²。

第二海堡⑩

第一海堡に続き、大正3年(1914)に完成した人工島で、面積41,300m²。

安国寺・木造不動明王坐像㊲

亀田の安国寺は、足利尊氏が夢窓国師のすすめに従い、南北朝動乱期の戦死者の霊を弔うために建立した寺である。不動明王坐像は寄木造りで、ガラスの玉眼が大きく見開かれ、歯をむきだしている。
永正16年(1519)に佐貫に起こった動乱で破損したが、天文8年(1539)に修理されたことが胎内の墨書に記されている。

佐貫城跡㊴

佐貫城跡は室町中期から江戸末期まで城主が替わりながら存続した城跡である。初期の城主は定かではないが、真里谷武田氏が居城したと見られ、その後天文年間(1532～1554)には武田氏との争いに勝った里見氏の所有となる。永禄10年(1567)の三舟山合戦では里見義弘がここを本拠地として北条氏に勝利し、ついでその子梅王丸が居城したが、徳川家康の関東入部に伴って、天正18年(1590)家臣の内藤家長が城主となった。その後江戸時代には、桜井松平氏、能見松平氏、柳沢氏、幕府代官、と城主が交替し、江戸中期の宝永7年(1710)に阿部氏が城主となって、廃藩置県まで続いた。

光明寺・木造釈迦三尊像㊺

鎌倉時代の制作と見られる釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩の三尊像で、中尊は台座を含めて総高166cm。釈迦三尊像は、元は境内の北にある山上の釈迦堂に安置されていた。

像法寺・石造宝篋印塔㊼

宝篋印塔は経典を納めた供養塔で、鎌倉中期から造られ始めた。関東では鎌倉を中心に多く造られたが、鎌倉に近い富津地方でも建立されるようになった。像法寺の宝篋印塔は、千葉県下でも最古段階の宝篋印塔で、元弘2年(1332)に造られた。

像法寺・石造層塔㊽

層塔とは三重塔・五重塔・多宝塔のように2層以上の仏塔のことで、個人や集団が祈願を塔に託して造立した。像法寺の層塔は五重塔で、隣接する宝篋印塔と同じく、鎌倉末期の元弘年間に造られたものと見られる。

浅間神社本殿㊾

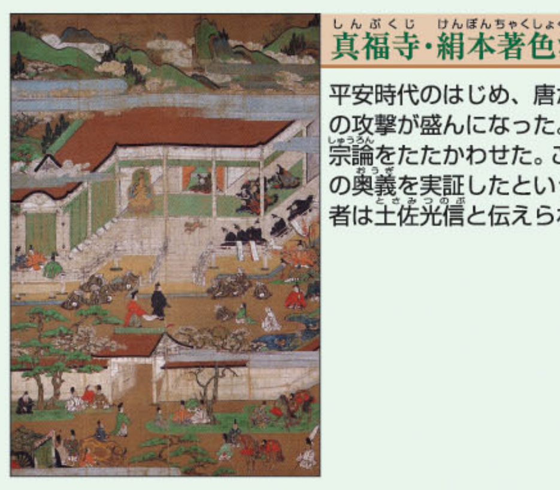
浅間神社は木花開耶姫命を祭神とする神社で、社殿は拝殿、相の間、本殿で構成される。本殿の小屋組の梁に、宝永6年(1709)に笹毛村の棟梁、藤原朝臣らが建立したことが墨書されており、改築年代の明らかな江戸中期の社殿建築として貴重な存在である。

鶴岡の羯鼓舞㊿

鶴岡の羯鼓舞は、明治以前より地区の長男の間に伝承され、毎年7月1日の例祭、および旱魃の続く年に雨乞い祈願のために上演奉納されてきた。後継者難のため、しばしば伝承は中断されたが、昭和50年(1975)に再興され、現在に至っている。例祭では、獅子役3名、囃子方9名、簓役4名で、11の演目が約2時間にわたり奉納される。

宮醤油店(53)

宮醤油店は、天保5年(1834)に創業された老舗の醤油店で、平成19年(2007)建物9件が国の登録文化財となった。現在残る建物のうち、店蔵が江戸末期に、西蔵が明治5年(1872)に、店舗・主屋・脇蔵が明治25年に、東蔵・旧米蔵が明治40年に、奥蔵が大正8(1919)年に、離れが大正14年にそれぞれ建てられ、江戸末期から明治・大正期の集合的な建築物として貴重な存在である。なお、佐貫地区にはこのほかにも明治・大正期の建築物数件が残り、城下町の面影を偲ばせる古い町並みを残している。



真福寺・絹本著色清涼殿八宗論図㉕

平安時代のはじめ、唐から帰朝した空海が真言宗を広めるにつれて他宗からの攻撃が盛んになった。嵯峨天皇は清涼殿に空海を召し、他宗の僧侶たちと宗論をたたかわせた。この絵は、その時空海が大日如来に化身して、即身成仏の奥義を実証したという説話を絵画化したものである。室町末期の作品で、作者は土佐光信と伝えられる。

真福寺・筆子塚㉖

真福寺第18世宥慶和尚の墓石で、寺子屋に学んだ弟子たちが建立した筆子塚である。舟形で僧形の坐像が浮き彫りにされており、高さ135cmを測る。墓石の台石には「師の恩に報いるため、僧俗弟子等謹んで刻せしむ」の文言が刻まれており、僧弟子と俗弟子が一緒に学んでいたことがわかる。江戸前期の寛文元年(1661)の建立で、初期の筆子塚として貴重なものである。

弁天山古墳㉔

墳丘長87.5mの前方後円墳で、内裏塚古墳に続いて5世紀後半に築造されたと推定される。後円部の上に露出している竪穴式石室は、長さ約5mで、中央の天井石の両側には縄掛突起が造り出されている。
石室天井石に縄掛突起が付けられた例は全国的にも非常に珍しい。

吾妻神社馬だし祭り㉘

吾妻神社は日本武尊の身代わりとして走水に入水した弟橘媛の遺品を祀ったと伝えられ、毎年9月17日神社に「ウマダシ」「オブリ」「ミコシ」を中心とする例祭が行われる。岩瀬海岸での馬だしはオメシと呼ばれる神馬の鞍に神霊である幣束をつけ、2人の青年が馬の両脇にしがみついて疾走する神事である。

絹横穴群㉚

丘陵の南斜面に開口する横穴墓群で、総数11基が確認され、1号横穴の壁面に「大同元年」・「許世」の文字が、10号横穴の壁面に「木」の文字が刻まれている。「許世」・「木」はそれぞれ畿内の古代豪族、巨勢氏・紀氏を示すものとして注目される。

八田沼・木造地蔵菩薩立像㉛

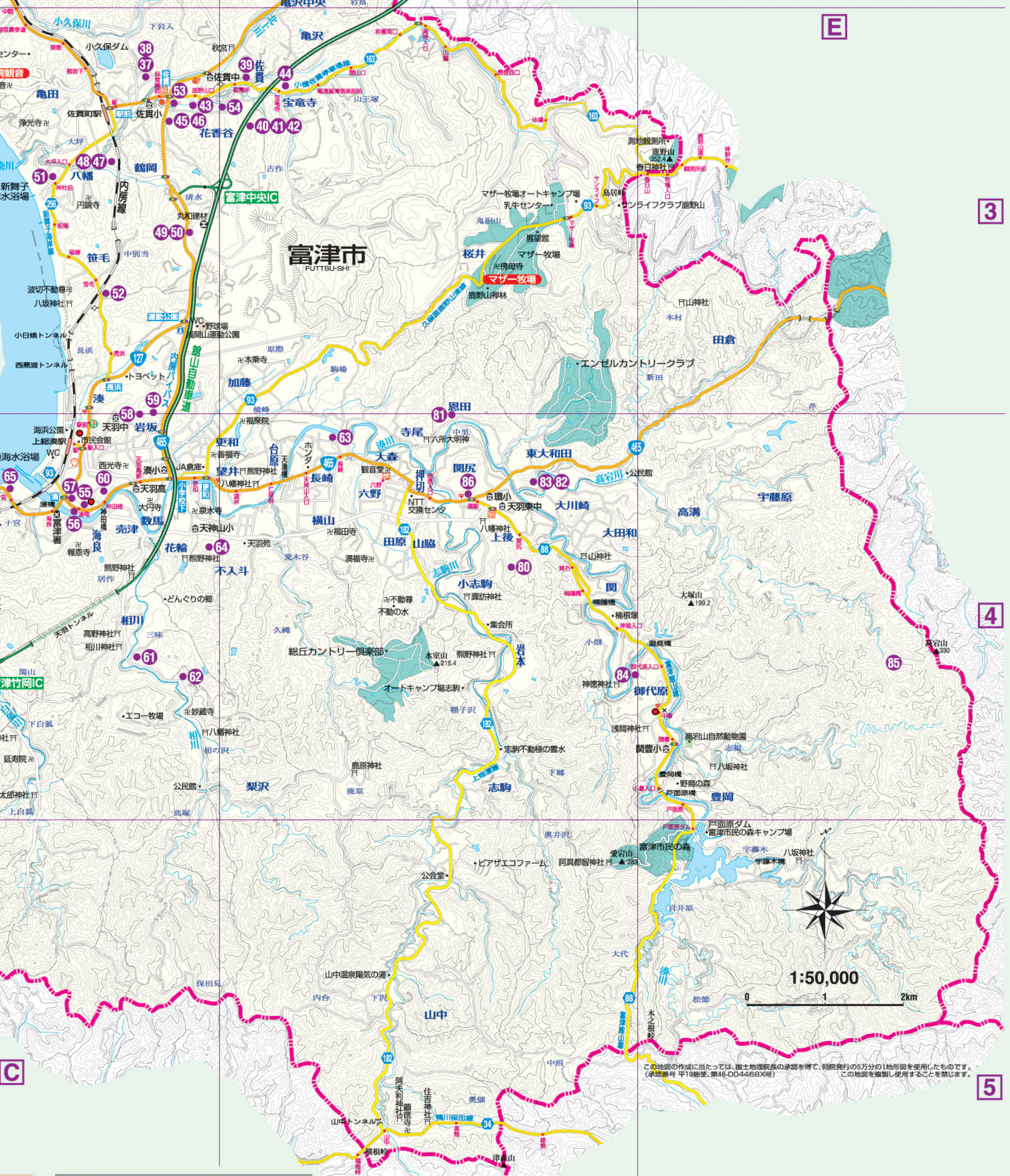
通称「田の草地蔵」と呼ばれる地蔵菩薩像は高さ180cmの長身で、室町中期の嘉吉2年(1442)に造立された。土地の伝承では、この村に悪病がはやり、田の草取りが遅れて困っていた時、この地蔵尊が草取りをして農民の暮らしを助けたといわれ、以来この像は「田の草地蔵」としてあがめられ、疫病が流行したときに参拝する人が多い。
ご開帳は毎月24日。

道場寺・木造阿弥陀如来坐像㉜

ヒノキの寄木造りで高さ67.8cmの坐像である。胎内に墨書があり、鎌倉時代初期の安貞元年(1227)の作であることがわかった。平成18年に大修理を実施。秘仏のため通常は見学できない。

東明寺・木造薬師如来立像(55)

東明寺本尊の薬師如来像は高さ216cmの巨像で、カヤの木の一木造りである。制作年代は平安後期といわれる。
平成19年(2007)に大修理が行われた。

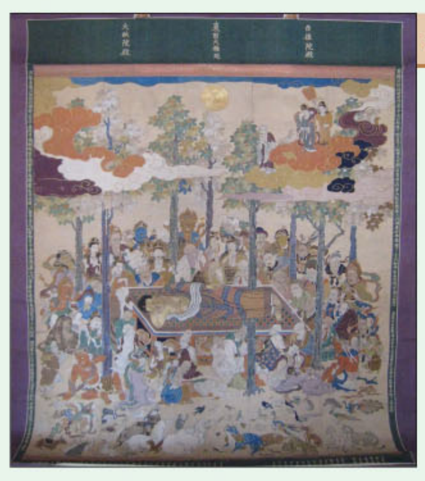


この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を使用したものです。（承認番号 平19総使、第46-D04468X号）この地図を複製し使用することを禁じます。

凡例
- 高速道路
- 国道
- 主地道・県道
- 一般道
- 信号機
- バス停
- JR
- ① 富津市文化財
- 市役所
- 出張所
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 分署
- 学校
- 病院
- 郵便局
- 工場
- 神社
- 寺院
- 一般施設
- 公園
- 緑地面

大満横穴群(58)

総数66基が確認される富津市内で最大クラスの横穴群で、昭和27年(1952)と昭和47年(1972)に発掘調査が行なわれ、船の線刻壁画などが確認されている。7世紀を中心に造営された。



松翁院(十夜寺)・釈迦涅槃図(66)

日本の浮世絵の創始者といわれる菱川師宣が下絵を描いて、その父菱川吉左衛門が刺繍したといわれる。万治元年(1658)の制作である。全国的にみても数少ない江戸時代前期の刺繍涅槃図であり、涅槃図自体の大きさは、縦207cm、横191.4cmの大幅である。
毎年、釈迦の命日とされる2月15日にご開帳される。

岩坂・木造虚空蔵菩薩坐像(59)

岩坂の虚空蔵堂に安置されている虚空蔵菩薩坐像は、高さ69.5cm、カヤの木の一木造りで、類例の少ない鉈彫りの仏像であり、鎌倉時代後期の作といわれている。

岩谷堂やぐら群(60)

岩谷堂やぐら群のやぐら（中世の墓地・供養堂）のいくつかは古墳時代の横穴を利用して造られ、重層的である。回廊の壁面には中世から江戸時代までに彫られたものと考えられる多数の磨崖仏があり、一巡りすれば全国の霊場を巡礼したのと同等のご利益があるとされた。

松翁院(十夜寺)・四面石塔(68)

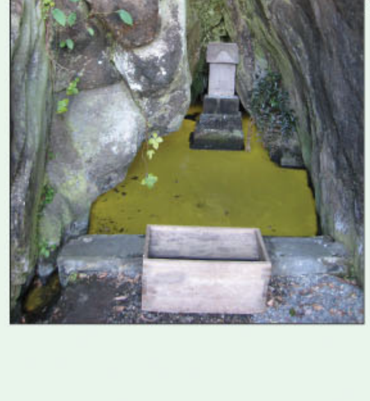
江戸前期の寛文10年(1670)に建立された高さ239cmの供養塔で、4つの面に「南無阿弥陀仏」の6文字が、楷書・ハングル文字・梵字・篆書の各書体で刻んであり、四海同隣の思想を示したものと考えられる。

延命寺・銅造地蔵菩薩坐像(70)

竹岡の街中にある露座の地蔵菩薩坐像は、寺伝によれば、江戸中期に当地方に疫病が流行し、亡くなった多くの人々のために延命寺住職が勧進してこの地に建立したという。江戸神田の鋳物師の作で、胎内には信者からの願文が多数納められている。

三柱神社本殿(71)

三柱神社の社殿は、造海城跡の山腹にあって、拝殿・相の間・本殿があり、本殿はこけら葺きの三間社流造り、現在本殿は覆屋で保護されている。養老2年(718)の創建といわれる古社であるが、現存の建物は寛文10年(1670)に改築されたものである。



竹岡のヒカリモ発生地(73)

ヒカリモは洞穴やトンネルなどの水溜りに群生し、菜の花の咲く頃になると、外からの光線を反射して黄金色に輝く。この海蝕洞穴はわが国で最初にヒカリモを発見した場所として、昭和3年(1928)に国の天然記念物に指定された。

金谷神社の大鏡鉄(76)

金谷神社のご神体である大鏡鉄は、社伝によれば室町中期の文明元年(1469)、西方沖550mの海中から引き上げられたものといわれる。本来の用途や制作年代は不明であるが、宮城県の塩竈神社にある製塩用の鉄鍋に類似したものである。

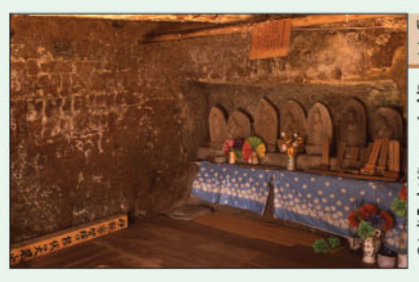
鋸山石切場・車力道(78)

標高329mの鋸山は金谷石（房州石）の産地として知られた。石の切り出しは江戸時代に始まり、明治・大正期には盛んに関東一円に出荷されたが、昭和50年代でその歴史を閉じた。車力道は石切職人が木製の荷車に石材を載せ、山から運び出した道である。鋸山ロープウェイの山頂駅の会館には、石切りの歴史をパネルで展示した「石切りコーナー」が設けられている。

富津市文化財マップ一覧表

通番号	指定	名称	所在地	地図索引
		富津地区		
①	県	富津州海浜植物群落地	富津2342-1	B-2
②	市	木造千手観音坐像	富津75(東福寺)	B-2
③	県	織本花嬌の墓(俳人)	富津36(大乗寺)	B-2
④	市	織本東岳の墓(漢学者)	富津36(大乗寺)	B-2
⑤	市	原口照輪生誕地(成田山中興)	川名1360	B-2
⑥	県	銅造釈迦如来・両脇侍坐像	篠部937(万福寺)	C-2
⑦	市	大日本史本紀列伝	新井932-34(富津公民館)	B-2
⑧	市	富津浦裁許絵図	新井932-3(埋立記念館)	B-1
⑨		第一海堡	富津字黒塚	A-2
⑩		第二海堡	富津字洲端	A-2
⑪		元洲砲台	富津字元洲	B-2
⑫		富津陣屋跡	富津字陣屋跡(石碑は字八王子925-8)	B-2
⑬		富津ふるさと展示室	新井932-34(富津公民館)	B-2
⑭		富津埋立記念館	新井932-3	B-1
		青堀地区		
⑮	市	小笠原氏の墓所(旗本)	西川1348(正珊寺)	C-2
⑯	市	石灯籠	青木887(浄信寺)	C-1
⑰	市	保科正景の墓(飯野藩主)	青木887(浄信寺)	C-1
⑱		森要蔵の墓(飯野藩剣術師範)	青木1145(浄信寺)	C-1
⑲		あんばさま・芭蕉句碑	青木1222(大杉神社)	C-1
⑳		平野武治郎の墓(海苔養殖)	大堀1505(明澄寺)	C-1
		飯野地区		
㉑	県	飯野陣屋跡(指定は濠跡のみ)	下飯野883他	C-1
㉒		笹塚観音堂	二間塚字北笹塚1271他	C-1
㉓		雲宮行在所跡	下飯野字雲宮	C-2
		大貫地区		
㉔	国	弁天山古墳	小久保3017-1	C-2
㉕	県	絹本著色清涼殿八宗論図	小久保2204(真福寺)	C-2
㉖	市	筆子塚	小久保2204(真福寺)	C-2
㉗		小久保藩邸跡	小久保2958-1	C-2
		吉野地区		
㉘	県	馬だし祭り(用具)	西大和田98(吾妻神社)	C-2
㉙	市	オブリ神事(吾妻神社)	西大和田・岩瀬	C-2
㉚	県	絹横穴群	絹229他	C-2
㉛	市	木造地蔵菩薩立像	八田沼236-2(田の草地蔵堂)	C-2
㉜	県	木造阿弥陀如来坐像	上530(道場寺)	D-2
㉝	市	正覚院本堂	上1021(正覚院)	D-2
㉞		三舟山合戦虚空蔵山本陣	障子谷字杉山他	D-2
㉟		三舟山合戦八幡山陣地	相野谷	C-2
㊱		三舟山合戦古戦場	相野谷	C-2
		佐貫地区		
㊲	市	木造不動明王坐像	亀田207(安国寺)	C-3
㊳	市	銅造十一面観音坐像(懸仏)	亀田207(安国寺)	C-3
㊴		佐貫城跡	佐貫字城跡1217-1他	D-3
㊵	市	内藤家長の墓(佐貫藩主)	花香谷455(旧勝隆寺)	D-3
㊶	市	松平勝隆の墓(佐貫藩主)	花香谷453(旧勝隆寺)	D-3
㊷	市	阿部正身・正恒の墓(佐貫藩主)	花香谷449(旧勝隆寺)	D-3
㊸	市	北村角兵衛の墓(鯛かつら網漁)	花香谷123(円龍寺)	C-3
㊹	市	白山の大スギ	宝竜寺447(白山神社)	D-3
㊺	市	木造釈迦如来・両脇侍坐像	鶴岡1050(光明寺)	C-3
㊻	市	光明寺釈迦堂の額	鶴岡1050(光明寺)	C-3
㊼	市	石造宝篋印塔	鶴岡719(像法寺)	C-3
㊽	市	石造層塔	鶴岡719(像法寺)	C-3
㊾	市	浅間神社本殿	鶴岡474-1(浅間神社)	C-3
㊿	市	鶴岡の羯鼓舞及び用具	鶴岡474(浅間神社)	C-3
(51)	市	鶴峯八幡宮再興棟札	八幡143(鶴峯八幡神社)	C-3
(52)	市	石造宝篋印塔・石仏龕	笹毛595(慈眼寺)	C-3
(53)	国登録	宮醤油店	佐貫247	C-3
(54)		相場助右衛門の墓(佐貫藩家老)	花香谷167(安楽寺)	D-3
		湊地区		
(55)	県	木造薬師如来立像	湊219(東明寺)	C-4
(56)		十分一改役所跡	湊27	C-4
(57)	市	井上宗端の墓(医学者)	湊283(湊済寺)	C-4
(58)	県	大満横穴群	岩坂字大満223他	C-4
(59)	県	木造虚空蔵菩薩坐像	岩坂242-2(岩坂虚空蔵堂)	C-3
(60)	市	岩谷堂やぐら群	数馬字岩井(岩谷堂清巌寺)	C-4
		天神山地区		
(61)	市	梵鐘	相川966(見性寺)	C-4
(62)	市	岩見堂やぐら	相川字岩見堂1113	C-4
(63)	市	鰐口	長崎517(白山神社)	D-4
(64)		大日堂磨崖仏	不入斗186(円正寺)	C-4
		竹岡地区		
(65)	県	竹岡のオハツキイチョウ	竹岡9(薬王寺)	C-4
(66)	県	釈迦涅槃図	竹岡349(松翁院)	C-4
(67)	市	岩野平左衛門の墓(義民)	竹岡349(松翁院)	C-4
(68)	市	四面石塔	竹岡349(松翁院)	C-4
(69)	市	庚申塔	竹岡349(松翁院)	C-4
(70)	市	銅造地蔵菩薩坐像	竹岡472(延命寺飛地境内地)	C-4
(71)	県	三柱神社本殿	竹岡4452(三柱神社)	C-4
(72)	市	会津藩士水泳の額	竹岡4452(三柱神社)	C-4
(73)	国	竹岡のヒカリモ発生地	萩生1176	B-4
(74)		造海城跡	竹岡字城山、萩生字花ノ木・木出根	C-4
(75)		燈籠坂大師堂	萩生字燈籠坂8-1(東善寺飛地境内地)	C-4
		金谷地区		
(76)	県	大鏡鉄	金谷4020(金谷神社)	B-5
(77)	市	諸岡太左衛門の墓(義民)	金谷2413(華蔵院)	B-5
(78)		鋸山石切場・車力道	金谷	B-5
(79)		鋸山山頂石切展示室	金谷	B-5
		峰上地区		
(80)	市	峯上城跡	上後765他	D-4
(81)	市	恩田やぐら	恩田374-1	D-4
(82)	県	環の大樟	東大和田12(興源寺)	D4
(83)	市	板碑	東大和田12(興源寺)	D-4
(84)	市	宝篋印塔	御代原254	D-4
(85)	国	高宕山のサル生息地	豊岡1283他	E-4
(86)	国登録	山静堂診療所(主屋)	関尻483	D-4

注 ▨ は非公開



岩見堂やぐら(62)

岩見堂やぐらは市内のやぐらの中でも荘厳で規模の大きいものであり、墳墓というより仏堂としての性格が強い。左側の壁には五輪塔4基が浮き彫りにされている。また堂内にある石仏群は江戸時代前期のものである。

円正寺・大日堂磨崖仏(64)

円正寺の裏山中腹に大日堂という岩窟があり、その中央に石柱を彫り出した磨崖仏の坐像がある。周囲には幾つもの石窟があり、石仏を安置している。かつてはこの岩窟の前に軒を出して堂舎が造られていたものと見られる。

恩田やぐら(81)

やぐらは鎌倉時代に丘陵の岩盤を掘りくぼめて造られた武士階級の墳墓で、供養のための仏堂を兼ねている。恩田やぐらの内部には数基の五輪塔が立てられており、奥壁には龕(厨子)と燈明穴が、床面には納骨穴と前面に溝が掘られている。

地図調製●株式会社 昭文社／電話 (03)3556-8156 (開発営業部)
発行●平成20年3月